

[成果情報名] ブドウ「甲斐ベリー7」の高品質生産技術

[要約] ブドウ「甲斐ベリー7」において、第1回目ジベレリン処理にフルメット5ppmを加用することで、ジベレリン単用処理と比較し果粒が肥大する。果粒軟化期以降、反射マルチを敷設すると果実の着色が向上し、タイベックカサをかけると果梗部の黒変が減少する。

[担当]山梨県果樹試験場・育種部・生食ブドウ育種科・小林正幸

[分類]技術・普及

[背景・ねらい]

「甲斐ベリー7」はマスカット香を有し皮ごと食べられ、食味に優れた赤色ブドウであり、令和4年1月に品種登録された。今後、県内での普及が期待されている。そこで、安定生産に向け、適切なジベレリン処理方法や着色管理方法について、明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 第1回目のジベレリン処理時にフルメット5ppmを加用すると、果粒が肥大し、房形がやや向上する。糖度や酸含量に差はみられない(表1)。
2. 果粒軟化から1週間後を目安に反射マルチを敷設することにより、棚面が明るくなり、果皮色が向上する。糖度に差はみられない(表2)。
3. 果粒軟化期以降、タイベックカサをかけ、収穫まで管理することで、透明カサと比較し果梗部の黒変の発生が減少する。果粒重や糖度、果皮色に差はみられない(表3)。

[成果の活用上の留意点]

1. 本成果は果樹試験場(山梨市江曾原:標高450~470m)における結果である。着房数は10aあたり2,500房とした。
2. 直光着色性であるため、葉影率が70%程度になるよう新梢管理に努める。
3. 着色管理が遅れると、着色が進みにくいため、除袋、反射マルチの敷設は果粒軟化から一週間後を目安に行う。
4. 短梢剪定の栽培管理については、現在検討中である。
5. 本成果を含め、これまでの試験研究により明らかになった内容については、「甲斐ベリー7」の栽培管理の手引き(令和5年3月配布予定)に記載されている。なお、手引きについては今後も改訂を行う予定である(問い合わせ先:果樹試験場、各農務事務所、JA営農指導課)。

[期待される効果]

「甲斐ベリー7」に適した栽培管理が明らかになり、県内への普及および安定生産が期待される。

[具体的データ]

表1 ジベレリン処理の違いが果実品質に及ぼす影響(2018~2020)^z

処理区 ^y	果房重 (g)	着粒数 (粒)	果粒重 (g)	糖度 (° Brix)	酸含量 (g/100ml)	果皮色 ^x c. c.	房形 ^w (1~3)
GA25 (F5)→GA25	590	35.7	16.6	19.4	0.36	3.3	1.7
GA25→GA25	500	38.2	13.3	19.5	0.40	3.7	1.2

z) 長梢剪定樹、101-14台、4~6年生、透明カサ、反射マルチ敷設

調査日：2018年8月23日、2019年9月9日、2020年9月23日

y) GA25:ジベレリン25ppm、F5:フルメット5ppm

x) 赤系ブドウ専用カラーチャート(山梨県総合理工学研究機構)：0(緑)~6(濃赤)

w) 1(良)~3(秀)

表2 反射マルチ敷設が「甲斐ベリー7」の果実品質に及ぼす影響(2021)^z

処理区	棚下照度 (Lux)	果房重 (g)	果粒重 (g)	糖度 (° Brix)	酸含量 (g/100ml)	果皮色 ^y c. c.
反射マルチ敷設	4,467	689	18.8	17.5	0.40	4.1
反射マルチ無し	1,533	690	18.1	17.8	0.43	2.7

z) 短梢一文字整枝、101-14台、7年生、GA25 (F5)→GA25、タイベックカサ

果粒軟化期：2021年7月18日、2022年7月18日

反射マルチ敷設：2021年7月26日、2022年7月28日

反射マルチ資材：タイベックシート(400WP、透水タイプ)、調査日：2021年9月1日、2022年9月13日

y) 赤系ブドウ専用カラーチャート(山梨県総合理工学研究機構)：0(緑)~6(濃赤)、2021~2022年

表3 カサの種類が果実品質に及ぼす影響(2021~2022)^z

処理区	果房重 (g)	着粒数 (粒)	果粒重 (g)	糖度 (° Brix)	酸含量 (g/100ml)	果皮色 ^y c. c.	果梗黒変	
							発生果房率(%)	発生度 ^x
タイベックカサ	606	38.3	16.3	19.0	0.42	4.1	10	4
透明カサ	611	38.5	16.3	19.4	0.37	4.2	62	50

z) 長梢剪定樹、101-14台、13~14年生、GA25 (F5)→GA25、反射マルチ敷設

反射マルチ資材：タイベックシート(400WP、透水タイプ)

カサかけ：2021年7月25日、2022年7月21日、調査日：2021年9月6日、2022年8月30日

y) 赤系ブドウ専用カラーチャート(山梨県総合理工学研究機構)：0(緑)~6(濃赤)

x) 発生度 = { Σ (発生指数 × 果房数) / 調査果房数 × 5 } × 100

発生指数(果房内の発生果粒の割合) 0:0% 1:1-5% 2:6-10% 3:11-25% 4:26-50% 5:51-100%

[その他]

研究課題名：着色系オリジナル品種の育成

予算区分：県単

研究期間：2018~2022年度

研究担当者：小林正幸、向山佳代、手塚誉裕、宇土幸伸、塩谷諭史、網中麻子、桐原 峻、里吉友貴